

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日平成 21年 8月 12日

【評価実施概要】

事業所番号	4070401932		
法人名	医療法人 貞元内科医院		
事業所名	グループホーム 馬借		
所在地 (電話番号)	802-0077 福岡県北九州市小倉北区馬借一丁目6番40号 (電話)093-551-0803		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年8月6日	評価確定日	平成21年8月28日

【情報提供票より】(平成21年7月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤(専任11人 兼務3人)	非常勤7人 常勤換算 11.9 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	築5年
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4階建ての	1階 ~ 4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱水道料15,000円
敷金	有 (250,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (250,000 円)	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,333 円		

(4) 利用者の概要(平成21年7月15日現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	2名	要介護2	3名		
要介護3	8名	要介護4	3名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 84.7 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・清水内科医院	・(医)はしもと歯科クリニック	・(財)三萩野病院
---------	---------	-----------------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム馬借はデパート、市場、市役所、イベント会場など都心の中心部に位置し、4階建て2ユニットのマンションタイプである。身体機能の低下とともにホームで過ごす時間が長くなるのを防ぐために、利用者の顔なじみの市場や銀天街に職員と買い物に行き、日々の暮らしがマンネリ化しないように努めている。小倉の伝統的な夏祭りや花火大会は利用者の楽しみの一つである。また、母体が医療法人なので、利用者の健康管理は万全である。管理者と職員のチームワークが良く取れていて、毎日の引き継ぎや気づきを正確に連絡し合い、利用者一人ひとりに合わせた介助を実践している。管理者はサービスの質の向上を目指すために、職員の習熟度や希望を参考にして、外部研修の受講を勧め、研修報告書を作成し、その後内部研修会を行ない、職員全員で共有している。家族の来訪者も多く、食事介助など協力的で、信頼関係が出来ている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では、「地域密着型理念の作成」「人権教育研修記録の充実」「職員を育てる取組」「思いや意向の把握」「重度化や終末期に向けた方針の共有」の5件であったが、管理者と職員が一年間努力した結果ほぼ改善出来ている。今回は「運営に関する家族の意見の反映」「食事を楽しむことのできる支援」「入浴を楽しむことのできる支援」などが今後の課題である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は、会議で管理者と職員が話し合い、まとめて管理者が作成している。職員全員が外部評価の意義を理解し、評価結果を回覧し、改善に向けた取り組みを実施している。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの現状、活動状況、行事予定等を報告し、参加者からは、介護に関する質問や要望、情報提供などが出され、活発な意見交換が行われるなど、ホーム運営に反映されるように努力している。今後は、地域の方の参加を募り、地域密着型運営推進会議として発展されることを期待する。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホーム玄関に意見箱を設置し、内部と外部の苦情相談窓口を掲示し、家族の相談や要望を受入れる体制があるが、ホームに介護を託している家族の心情から、苦情はなかなか出にくい状況である。職員は家族の来訪時に親しく話し合い、意見を聴き出している。家族だけで本音で話し合う、家族会を立ち上げ、家族会として意見を出し、ホーム運営に反映していく工夫が望まれる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、職員と利用者は回覧板を一緒に持って行ったり、散歩や買い物コースで行われる「小倉祇園太鼓」「わっしょい百万夏祭り」を地域住民と一緒に見たり、魚町銀天街や旦過市場には、利用者の馴染みの方が多く、会話がはずんだりしている。また、地域の保育園児との七夕飾りや季節ごとの交流は、利用者の楽しみの一つである。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	前回までの理念に地域密着型を掲げ、「和を重んじ、皆で明るく、地域の中で、楽しい共同生活を送る」という理念に変更し、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支援していけるようにつくり上げている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	理念を目に付きやすい場所に掲示し、毎朝、理念を唱和し、実践に向けて取り組んでいる。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	地域の保育園児と一緒に七夕飾りを作ったり、季節の行事を通じての交流がある。また、町内会に加入し、利用者と一緒に回覧板を回している。ホーム近くの市場や銀天街には、利用者の顔なじみも多く、散歩や買い物を通じて暮らしの中で地域の人々との交流を大切にしている。		
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	管理者、職員は自己評価及び外部評価の意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	民生委員、地域包括支援センター職員、利用者、家族、院長、事務長、ホーム職員が参加し、2ヶ月に1回開催している。会議では、利用者の状況説明、行事、活動報告など、活発な意見交換が行われ、ホーム運営に反映されようように努力している。		今後は、地域の住民など参加メンバーの幅を広げ、より地域に開かれたホームを目指すことが望まれる。
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
6	9	市町村との連携	地域包括センターや区役所の窓口にお問い合わせや相談を行い、問題の解決に向けて取り組み、サービスの質の向上に繋げている。今年度は、介護相談員の受け入れも予定している。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	<p>権利擁護に関する制度の理解活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるように支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する研修に参加し、資料を用意し、内部研修を行い、管理者や職員は制度を理解し、必要な時に支援できる体制である。現在、制度を活用されている利用者がいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回、「グループホーム馬借便り」と利用者の健康状態を担当職員が詳細に記入した状態報告書を送付し、利用者の日々の暮らしぶりや健康状態、行事などを知らせている。また、金銭管理についても、毎月報告書と領収書を送付し、家族に報告している。</p>		
9	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に、意見箱を設置しているが利用はほとんどない。意見や要望は、毎月の行事の時や、運営推進会議でだされることが多く、その都度対応し、ホーム運営に、反映させるよう努力している。</p>	○	<p>利用者の介護を託している家族の気持ちを考えて、家族同士で悩み、心配ごとなど、本音で話し合える家族会を立ち上げ、意見や苦情などを聴き、ホーム運営に活かしていくことが望まれる。</p>
10	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動は少ない。担当制ではあるが、職員は利用者全員と馴染みの関係であり、職員の異動による利用者へのダメージを最小限に抑えている。</p>		
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用にあたっては、年齢、性別などの制限はない。職員の希望に応じた勤務表を作成し、職員の社会参加や自己実現の権利が十分に保障され、生き生きと仕事ができるよう配慮している。</p>		<p>職員が生き生きと利用者の介護に専念できるよう、休憩室や休憩時間のとり方の工夫が望まれる。</p>
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる</p>	<p>人権に関する研修会に参加し、内部研修を行い職員に対する人権教育に取り組み、利用者の尊厳を守りながらのケアを実践している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加を促し、スキルアップの機会を確保している。また、内部研修を通じて研修内容を職員全員で共有し、介護サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に参加し、情報交換や勉強会を実施し、交流を深めている。		今後は、職員同士の相互訪問や見学会を行い、地域の介護サービスの質の向上を目指す取り組みを期待したい。
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員は、入居希望者に少しでも、ホームに馴染んでもらうために、入居前に自宅を訪問し、面接を行い、ゆっくりと話を聴き、入居希望者や家族の不安を取り除く努力をしている。また、ホームに見学に来ていただくなど、本人、家族が安心して入居出来るよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に掃除や炊事を行ったりしながら、人生の先輩である利用者から多くのことを学び、家族の一員として共に暮らし支え合う関係が出来ている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から、または利用者の生活暦、家族からの聞き取りなどから、利用者一人ひとりの思いや希望を汲み取る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ミーティング時に職員の気付きや意見を出し合い、家族の要望を聴きながら、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直し、モニタリングを行い、介護計画を作成している。また、状況の変化に応じて、本人、家族、医師、職員で相談し、その都度介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医院、デイケア、介護支援センターが併設されており、利用者や家族の要望に応じて支援している。また、訪問マッサージ、病院、理美容院への送迎、商店街、市場への買い物など、可能な限り本人、家族の要望に応じている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は出来る範囲で支援しながら、ホームの提携医との連携を通じて、利用者が安心して適切な医療を受けられるよう支援している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針を作成し、ホームが出来ること、出来ないことを明確にしている。利用者、家族、医師、職員が繰り返し話し合い、利用者、家族が安心してサービスを利用できるよう、方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	勉強会などで、職員の意識向上を図り、さりげない声かけや対応に配慮し、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう注意している。また、個人情報の取り扱いにも、細心の注意を払っている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日は何がしたい?」と尋ね、利用者一人ひとりのその日の体調に配慮し、一人ひとりのペースを大切にしながら、その人らしく過ごせるよう支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みや力を活かしながら、テーブル拭きや配膳などを行っている。会話や笑い声のある食事風景である。	○	利用者にとって食事は一番の楽しみであり、利用者と職員が、同じテーブルと一緒に食事をとることが出来るような工夫が望まれる。
26	59	入浴を楽しむことのできる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は原則週2回であるが、必要に応じてシャワー浴、予備日として土曜日を設け支援している。	○	4階建てのビルの中の2ユニットという厳しい環境の中ではあるが、工夫を凝らし、利用者の希望やタイミングに出来るだけ合わせて入浴を楽しめるような支援が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの出来る力に応じて、テーブル拭き、掃除、草花の水やりなど役割を分担し、また、楽しみごととしてレクリエーション、体操、卓球、美術館に出かけたりなど、役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園へ散歩に出かけたり、馴染みの商店街、市場に買い物に出かけたり、一人ひとりのその日の希望にそって支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は原則として鍵をかけないケアに取り組んでいる。職員は利用者の癖や行動を理解し、見守り支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を行っている。また、地域の方と顔なじみになれるよう、散歩、買い物、回覧板を回すときに挨拶して、馴染みの関係をつくり、行事に協力してもらえよう努力している。		災害に備えて、飲料水、非常食、毛布等の備蓄が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を個別に記録し、職員は、利用者一人ひとりの状態を把握し、栄養バランスを考えて、細やかに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先のプランターには季節の花が植えられ、訪れる人を和ませてくれる。共用空間では、時には卓球台として使われるテーブルやソファが置かれ、狭い空間を工夫して居心地よく過ごせるようにしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はそれぞれ馴染みのある家具や小物を持ち込み、家族の写真や絵、花を飾り、温かみのある居心地よく過ごせる雰囲気のある居室になっている。		